

【暗唱聖句】

創世記 2:3 「この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された。」

【今週のポイント】 安息日は神様と交わる特別な日として天地創造の時に定められた。

【日曜日・休みへの前奏曲】

聖書は、「初めに、神は天地を創造された」（創世記 1:1）という言葉で始まります。この短い一言の中に、この世界には初めがあったと言うこと、この広大な宇宙には神様がおられるということ、そして、その神様が初めにこの世界を創造されたということがわかります。神様は1日ごとに、光・大空・陸地・植物・太陽・星・動物・そして人間を創造され、その1日毎に、それを「良し」とされます。悪いものは何一つありませんでした。神様が6日目に人間を創造されましたが、他のものとは異なる方法で創造されました。それまではすべて言葉を発することで創造されました。神様が「光あれ」と言われれば、光が出現するのです。しかし、人間の創造では、神様ご自身の手で土から丁寧に形造られていき、最後に神様の息（霊）を吹き込まれて命を与えられたのです。そこに神様の人間に対する特別な思いが込められています。この素晴らしい世界を、神様は人間のために創造して下さったのです。6日目に創造されたすべてのものをご覧になったとき、「見よ、それは極めて良かった」（創世記 1:31）と、これまでの表現よりも強調され、すべての創造の業が終わったことを示されました。

【月曜日・休みなさいとの命令】

6日目ですべての創造の業は終わったのですが、それはこの世界が完成されたわけではありませんでした。不思議なことに、神様はもう1日、7日目を過ぎられたあと、天地万物の完成を告げられるのです。神様はこの第七日目を安息日として聖別し、祝福されました。安息日は神様の創造の一部であるばかりか、ある意味創造の頂点に来るものでもあります。人間や動植物、様々な自然が完成しても、安息日がなければ天地万物の完成はなかったからです。なぜ、神様は最後に安息日を定められたのでしょうか。それは私たちのためです。1週間に1度、神様とだけ交わる時を持ち、霊肉ともに休むための日を設けて下さったのです。言葉を換えれば、そのような1日が人間には必要だったということです。そのように造られたということです。

ところが罪が入り、すべてが変わってしまいました。人間は神様と直接交わることができなくなってしまいました。肉体も精神も急激に弱くなっていきました。しかし、神様は安息日を残してくださいました。罪を犯す前にも安息日が必要だったとすれば、罪を犯した後の私たちにどれほど安息日が必要なことでしょうか。このことをはっきりと教えるために、神様は十戒の第四条に、「安息日を心に留め、これを聖別せよ」（出エジプト 20:8）と書いたのです。第四条の教えは、天地万物のときにそうだったように、1週間に1度、私たちが神様と交わり、霊肉ともに休むためであり、それと共に創造の業を思い出す、私たちが神様によって、神様に似せて造られた存在であることを思い出すという意味もあります。

【火曜日・新たな状況】

400年もの間、エジプトで奴隷状態にあったイスラエルの民は、そこで一つの国家を形成できるほど増え、神様がアブラハムに約束された、大いなる民とするとの約束が成就していきました。エジプトを脱出した後は、すぐにカナンの地に入ることができたはずでしたが、不信仰のために40年も荒野を彷徨うこととなります。しかし、神様は見捨てられたわけではありませんでした。宿営の中心に聖所を造らせ、そこに臨在されました。そして、食べ物がない荒野において、神様は天からマナを降らせて40年間ずっと養って下さったのです。

ところで、このマナに関して興味深いことが起こりました。それは土曜日にはマナは降らず、金曜日に2日分のマナが降ったことです。神様は安息日にマナ拾いをしないで休めるようにして下さったということです。モーセは民たちに次のように言いました。

「よくわきまえなさい、主があなたたちに安息日を与えたことを。そのために、六日目には、主はあなたたちに二日

分のパンを与えている。七日目にはそれぞれ自分の所にとどまり、その場所から出てはならない。」民はこうして、七日目に休んだ。」 出エジプト 16:29、30

ところで、聖書の中で、安息日という言葉が初めて登場したのが、この出エジプト 16 章です。興味深いのは、この出来事はまだ十戒が与えられる前のことだったということです。安息日を守るようにとの教えは十戒が与えられたことによって始まったかのように見えますが、このマナの出来事からわかるように十戒が与えられる以前から守られていました。そもそも安息日は天地創造の最初に定められたものであり、その時から今日に至るまでずっと聖別され、祝福されてきたのです。

【水曜日・もう一つの休む理由】

40 年間の荒野での生活を終え再びカナンを前にしたとき、モーセは民たちに改めて十戒の教えを語ります。その際に、安息日に関する言葉が、出エジプトの十戒の言葉と少し異なります。出エジプト 20:8 では、「安息日を心に留め（口語訳・覚えて）、これを聖別せよ」という言葉で始まっていますが、申命記 5:12 では、「安息日を守ってこれを聖別せよ」で始まっており、「覚えて」が「守って」になっています。十戒が与えられたときは、安息日を忘れないようにいつも覚えていることにポイントがありましたが、40 年間荒野でずっと安息日を忘れず守ってきた民たちに対して、これからカナンへ入っても、変わることなく安息日を守っていかなければならないことを確認しています。それと共にモーセが覚えるように付け加えたことがありました。それは、「かつてエジプトの国で奴隷であったが、神様が力ある御手と御腕を伸ばして、ここまで導き出して下さったこと」（申命記 5:15）でした。そして、そのために安息日を守るよう命じられたのです。安息日は、休みなく働かされた奴隷から、解放され自由とされたことの象徴となったのです。カナンまでたどり着いた者たちは、奴隷時代を知らないものがほとんどでしたが、親や先祖たちが歩んできた辛い奴隷時代を忘れさせないために、安息日ごとに思い出すように言われたのです。同様に私たちは、罪の奴隷から解放されたことを、安息日ごとに思いだし、喜ぶのです。

【木曜日・安息日を守ること】

安息日を守るとは、具体的にどうすることでしょうか。イザヤ 58 章に、「もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得」（イザヤ 58:13, 14）と書かれてあります。ポイントは、「安息日を喜びの日、主の聖日を尊ぶべき日」とすること、そしてそれに伴い「自分の楽しみを求めないこと」。そうすると、主によって喜びを得ると約束されています。安息日を覚えるとは、安息日が来たら慌てて思い出すのではなく、1 週間通して安息日を覚え、それに向かって備えていくことが大切です。また、レビ 19:3 に「あなたがたは、おのおのその母とその父とおそれなければならない。またわたしの安息日を守らなければならない。わたしはあなたがたの神、主である」とあるように、家族で安息日を守って行くことも大切です。親を恐れ敬っている子どもときから、きちんと安息日の大切さを教えて行くことです。家族で安息日に入るのです。